

第4回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

受賞高校のみなさん、おめでとうございます！



読売新聞社賞

名古屋市立名古屋商業高等学校 商品開発研究班

葦から“Zoo” Flight

川辺や干潟に広がる葦の群落。葦の持つ「水質浄化作用」と「生物多様性の維持」に着目し、環境保全活動とビジネス活動を連動させる活動を実施。これを実現するために、葦を原材料とした商品生産を目指し、様々な業界の企業や団体と交渉を重ねた結果、5種類の商品を誕生させることができた。葦を原材料とした「小型のポーチ」や「うちわ」の商品を完成させた。海外からの旅行者への「クール・ジャパン」の土産物として開発した。



高校生が選ぶ特別賞

愛媛県立上浮穴高等学校 カホンプロジェクトチーム

森林の想いを音色にのせて ~カホンを通じた森林環境教育の実践とSDGs達成に向けた取組~

上浮穴郡久万高原町は、森林面積が90%以上を占める。持続可能な森林管理技術の確立、木材利用の推進と啓発、SDGs達成に向けた取組の3本を柱として活動を行っている。間伐を実施し適正な林分密度へ誘導。また、木材利用の推進や環境教育で注目したのがカホン(ペルーの民族楽器)。地域のイベントで演奏でき、木材利用の啓発にもつながると考え、過去1年間(H29~H30)に11回のワークショップを行い、延べ507人が参加し、355個のカホンを製作した。



先生が選ぶ特別賞

青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS & BUBBLE BOYS

安全な水とお腹いっぱいのお腹を届けるために

発展途上国では富栄養化によって発生した藻類が水に毒性物質を出し、子供たちや家畜の命を奪っている。また散布した農薬が水源を汚染している。さらにこれらの国は食糧不足も深刻。そこで、食することができる作物(トウモロコシとインゲンマメ)を池沼で栽培したら、水質浄化と食糧生産が同時にできる新しいシステムが開発できるのではないかと、また農薬を現在の霧状散布ではなく泡状にしたら飛散しにくいのではないかと考え活動を進めている。



プレゼンター・審査委員



審査委員長
小澤紀美子
東京学芸大学 名誉教授

<審査委員長 講評>

高校生が楽しみながら自主的に環境活動に取り組んでいることが、共感と感動を得る力になっていると感じられました。未来を担う若者達がSDGsに取り組む姿を見て、大変勇気づけられました。



投票箱



高校生の投票



先生の投票



環境省プレゼンター
中井徳太郎
環境省総合環境政策統括官



審査委員
佐藤隆史
環境省 大臣官房
環境経済課 民間活動支援室長



審査委員
福井光彦
独立行政法人環境再生保全機構理事長



審査委員
渡辺綱男
国連大学サステイナビリティ高等研究所
シニアプログラムコーディネーター



審査委員
貞広貴志
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局 事務局長



審査委員
野村隆治
キリン株式会社
執行役員CSV戦略部長